

阪神港

CONPAS導入で検討会

追加機能・課題を議論

【関西】第1回阪神港におけるCONPAS導入に向けた検討会」が19日、神戸市内であった。新・港湾情報システム（CONPAS）の阪神港（神戸港、大阪港）での導入に向けて諸課題を議論する。第1回会合では横浜港での実証実験の状況や、阪神港での追加機能などが議題に上った。

検討会は国土交通省近畿地方整備局と阪神国際港湾会社が事務局を務める。初回では国のAI（人工知能）ターミナル政策とCONPAS導入の現状▽阪神港で追加を検討する機能▽運用の在り方などを議論した。

約や搬入票電子化といった既存機能に加え、携帯端末へのコンテナターミナル（CT）内の行き先表示、通関状況などを踏まえた配車、ブラカード廃止など外来シャシのヤード内位置情報を活用した作業管理の高度化などを短縮、関係者の反応も

良好だとした。

一方、阪神港でのCONPAS追加機能に際し、どのような形で携帯端末に機能を持たせるかや、無線などの既存のターミナル運営手法との兼ね合い、携帯端末利用に対する高齢ドライバーの反応などといった点で意見が出た。

検討会は大坂、神戸各府県の港運協会や海運貨物取扱業会・組合、ターミナルオペレーター、阪神港海上コンテナ協会、大阪市港務局、神戸市港務局などが出席。今後個別に意見聴取を進め、夏以降に第2回を開く。